

「環境セミナー」を開催

当協会は2月16日、海運クラブ2階ホール（オンライン併催）にて、GHG問題をテーマとした「環境セミナー」を開催した。

セミナー冒頭、主催者を代表して加藤雅徳 当協会副会長が開会の挨拶を述べた後、5名の産官学の専門家が講演を行った。

会場には会員会社をはじめ、海事関係団体・企業や報道関係者など約70名が聴講したほか、オンラインで約110名の計180名近い参加があり、最新の情報提供に加え、質疑も交えた意見交換がなされた。

各講演の概要は以下の通り。



加藤副会長

第1部: 「IMO Net-Zero Frameworkの動向と海運業界への影響」



塩入氏

塩入隆志 氏（国土交通省 海事局 海洋・環境政策課 環境渉外室長）

塩入氏からは、現在、国際海事機関（IMO）にて国際海運 GHG 排出規制である「Net-Zero Framework」を含むマルポール条約改正案について議論が行われているところ、2025年10月の臨時海洋環境保護委員会での審議状況や加盟各国の反応などを踏まえ、条約改正案の概要と条約改正案を前提とした燃料転換や、今後 IMO 加盟国に求められる必要な対応について説明があった。

第2部: 「環境対応に関わる関係者の取り組み（1）: 燃料転換」

渡邊学 氏（ENEOS 中央技術研究所 燃料技術グループ）

橋本朋広 氏（出光興産 原油・海外事業部 次長）

GHG 排出ネットゼロの目標を達成すべく、船用燃料についてもカーボンニュートラルに資する新しい燃料の導入が求められているところ、渡邊氏より、各種の将来燃料候補に関して、その特徴および課題ならびに開発状況などについて説明があり、橋本氏より、技術面・コスト面・燃料供給体制などの観点から、今後どのような取り組みや選択肢がありうるのかについて解説があった。



渡邊氏



橋本氏



久米氏



三上氏

**第 3 部: 「環境対応に関わる関係者の取り組み (2):
航行効率・燃費改善」**

久米健一 氏 (海上技術安全研究所 流体設計系流体制御
研究グループ グループ長)

三上航平 氏 (東京大学大学院 海事デジタルエンジニアリング 講
座 特任研究員)

IMO が掲げる GHG 排出ネットゼロ目標の達成に向け、さまざまな脱炭素技術の研究が進められているなかで、今後は高価なゼロエミ燃料の使用を前提とした運航が想定され、従来以上に省エネ性能の向上が求められているところ、久米氏より、海上技術安全研究所において取り組んできた船体抵抗低減や推進性能向上に関する研究と成果について、三上氏より、風力推進船を対象としたコンピュータ上でモデル化したシミュレーションによる設計・検証に関わる基盤構築の取り組みについて、説明があった。

以上